

研究ノート

# 子育て支援センター実習を取り入れた 母性看護学実習の検討

## A Study of Maternal Nursing Practice Incorporating Practice in the Child Care Service

山口さつき 澤田みどり

Satsuki YAMAGUCHI, Midori SAWADA  
保健福祉学部保健看護学科

キーワード：母性看護学実習，看護大学生，子育て支援センター，退院後の母子および家族

### 抄 録

年々、実習体験が減少してきている母性看護学実習において、学生が退院後の母子およびその家族の状況を把握し、その支援を知るために子育て支援センターの実習を取り入れた。実習前後で学生に「退院後の母子および家族のイメージ」と「子育て支援についての知識」について記入してもらった。その結果、退院後の母子のイメージは具体的なものになり、子育て支援の知識は現状と結び付けた理解となっていたので、子育て支援センターの実習が有意義であることが示唆された。

## I. 緒 言

少子化などの影響により母性看護学実習施設は今後不足することが予測されており、限られた実習環境において対象理解につながる効果的な教育方法の検討が急務である<sup>1)</sup>とされている。当大学の母性看護学実習においても病院実習における出産の減少に伴い、母性看護の実習体験が十分でない現状が続いている。また、健全な親子・家族関係を築けるようにするためには、働き方改革と同時に、子育て世代を身近な地域で親身に支える仕組みを整備することが急務である<sup>2)</sup>とされており、地域での子育て支援が重要視されているが、退院後の母子及び家族について学習する機会がない。そのため、母性看護学実習に子育て支援センター実習を取り入れることとした。本研究は、子育て支援センター実習を取り入れた実習を受けた学生の退院後の母子の現状および支援についての認識が、実習前後でどのように変化したのかを明らかにし、今後の母性看護学実習の在り方を検討する一助とすることを目的とする。

## II. 研究 方 法

### 1. 調査対象・調査方法

調査対象：旭川大学 保健福祉学部 保健看護学科において、研究期間内に母性看護学実習を受けた学生。

研究方法：無記名自記式の質問調査を行った。実習前の調査票は、実習前オリエンテーションの際に配布し回収封筒を回して回収した。実習後の調査票は、実習終了後、実習担当者が手渡しで配布し、回収は回収箱への投函を依頼した。

### 2. 調査期間

平成 29 年 9 月 19 日～平成 30 年 10 月 31 日

### 3. 調査内容

- 1) 病院で出産し退院した母子およびその家族についてのイメージ
- 2) 子育て支援について知っている事  
以上について自由記述とした。

#### 4. 分析方法

実習前後の調査票の記述内容において、退院後の母子および家族のイメージ、子育て支援の知識における内容を取り出し、2つ以上の意味を含まないようにデータを区切り基本データとした。KJ法の手法を参考にコード化し、各項目の内容を研究者内で妥当性を高めるために数回にわたり検討しサブカテゴリー、カテゴリー、コアカテゴリーへと抽象度を高めた。

#### 5. 倫理的配慮

実習前の調査票は、実習のオリエンテーションの際に配布し説明したが、記入は強制的ではなく、研究の参加に同意しない学生は、回収封筒を回すが白紙で提出してもかまわないことを伝えた。実習後の調査票は、実習担当者から手渡したが、回収は後日回収BOXにて行い、強制ではないことを伝えた。

### Ⅲ. 研究結果

調査票は70名に配布し、実習前の調査票は58名から回答が得られた(回収率82.8%)。実習後の調査票は28名から回答が得られた(回収率40.0%)。

#### 1. 退院した母子およびその家族についてのイメージ

実習前の退院後の母子および家族のイメージにおいて、50コードから7カテゴリー「子どもが生まれたことによる生活や親役割の変化」「子育てへの人的サポート」「子育てへの負担感」「育児不安が生じている」「アンビバレントな気持ちが生じている」「幸せなイメージ」「イメージできない」を抽出した。実習後のイメージにおいて、29コードから6カテゴリー「子育てへの人的サポート」「子どもが生まれたことによる生活や親役割の変化」「育児不安が生じている」「アンビバレントな気持ちが生じている」「幸福感を感じている」「復職後の育児を考えている」を抽出した(表1・2)。

#### 2. 子育て支援についての知識

実習前の子育て支援についての知識において、39コードから5コアカテゴリー「母子保健行政・公的支援事業」「母子保健支援事業」「支援内容と場所」「親の集まる場所」「知識としてない」を抽出した。実習後の知識において、36コードから8コアカテゴリー「子育て支援センターの存在」「主体的育児に取り組む母親の場所」「助言を受ける場所」「子どもの遊び場」「支援を受けられる場」「少子化政策の実践機関の場

「子どもを預ける場や漠然とした知識」を抽出した(表3・4)。

### Ⅳ. 考察

退院後の母子および家族のイメージについては、実習前には「負担感」「育児不安」のマイナスイメージが44%と半数近くを占めていたが、実習後には「育児不安」のマイナスイメージが13.7%と減少していた。これは、講義において、現在核家族化が進み父親の子育て参加が求められているが遅々として進まず、子育ての負担が母親にかかる。その対策として地域で子育てを支援していく対策が取られていると学習するが、対策についての具体的なイメージが付かず、母親の大変さのみが印象に残っていたのではないかと考える。子育て支援センターの実習を体験したことで、スタッフが見守る中、母親同士が情報交換、育児についての悩みを共有していることを知り、退院後の母子のマイナスのイメージが減少したと言える。さらに、子育てへの人的サポートが必要だというイメージは、実習前は13.4%を占めていたが、実習後は44.8%と半数近くを占めており、退院後の母子を支える必要性を実習を通して実感したことが伺える。また、実習前はイメージがつかない学生もいたが、実習後には仕事と子育てについても考えを巡らせるなど、より具体的なイメージを抱くことができていることがわかる。服部律子<sup>3)</sup>は、「それぞれの母子や家庭には日々の暮らしの中に育児がある。親になる前から親になった後を連続線上でとらえ、家族全体をケアの対象としたケアが必要である。」と周産期のメンタルヘルスケアについて述べている。今回の子育て支援センターの実習前後の調査結果は、実習前は座学の知識を中心とした漠然としたイメージを抱いていたが、実習後には、親になる前の妊娠期の実習から親になった後の産褥期の実習、さらに退院後の地域の関連する施設の実習を通して、母子に関わって感じた学びが、座学の一部と結びつき体感学習となっていることがわかる。そこから、服部の述べる家族全体をケアしていくという考えへ発展させていく指導が必要である。

子育て支援の知識については、実習前は座学の中で学んだ行政主体の内容が中心であったが、実習後は子育て支援センターの業務内容や、母子のセンター内における活動としての場が具体的な内容として記述されている。文部科学省の「看護学教育モデル・コア・カリキュラムの構成」の中に、「看護系人材として求めら

表1 退院後の母子及び家族のイメージ（実習前）

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
子どもが生まれたことによる生活や親役割の変化	親としてはじまり	これから親としての生活が始まっていく
		新しい自分以外の人への人生がはじまる
	家族の役割の変化	子ども（新しい家族）が増えることで家族がこれまで担ってきた役割の変化に対応するのが大変そう
	家族の関係の変化	1つの生命誕生により、母子および家族の関係が変化しているのではと考えられる
子育てへの人的サポート	家族のサポートを得て子育てしている	周りにサポートしてくれる人（実母など）がいると安心して子育てができると思う
		退院後は母親の実家か家に祖母が来て一か月ほど家事を手伝ってもらって育児に専念する家族が多い
		子育てに苦戦しているが、おじいちゃんやおばあちゃん、夫の力を借りて助けあっているイメージ
		祖母が育児を助けるイメージ
	親が家に来て子育ての支援をしてくれたり、保健センターなどで体重測定して育ててそう	
応援したい	これから始まる子育てをがんばってほしい	
サポートしたい	子育てで困ったことがあればサポートしたい	
子育てへの負担感	子育てが大変そう	これからの生活が苦労の日々になると思う
		子育て中心の生活になって大変そうなイメージ
		大変そう（2）
		退院した後も大変そう
	子育て大変そう	
	病気で入院し退院した時と同じ疲労感	病院から帰ってきて病気で入院して退院したのと同じような疲労感を抱いているイメージ
	一人で子育てし、周囲から孤立	一人で子育てしなければならない場合の孤独や不安が大きいイメージ 退院後、一人で頑張っていかななくてはいけない 周囲から孤立しがち
母親の負担大きい	父親は父親教室などに通っていると思うが、実際の生活の中に組み込まず母親の負担が大きい	
育児不安が生じている	育児について不安を感じている	子育てが初めての母親は不安の中で退院して生活していると思う
		子どもへの関わり方や育児について不安を抱えている
		産後5～7日の入院中に、授乳指導や沐浴、おむつの指導などをしてもらったが全てのお母さんがそれによって自信をもって退院するわけではないと思うので不安を抱えている母も多いと思う
		不安を抱えたままの育児は母子の関係において悪影響を与えるイメージ 慣れない育児に不安を抱いているイメージ
	眠れない不安	母親は夜も眠れなく精神的に不安定になりやすい
	子どもの成長に対する不安	子供のこれからの成長について不安を抱えている
	知識不足で不安	知識不足で不安を感じている
		何が正解かわからなくて不安
		初産だったら専門職の人がいるから安心感があると思うが退院直後はその分不安も強そう
	漠然とした不安	母親は情緒不安定な時期
初めてのことがばかりで不安になっているイメージ		
アンビバレントな気持ちが生じている	子どもができた喜びと不安の両方の気持ちが生じている	退院直後は出産して子と帰宅できる喜びと今後の子育ての不安を抱えているイメージ
		不安がある。希望がある
		これからの子育てに不安を抱えているとともにお腹の中で大切に育ててきた子供が生まれ幸せでいる
		幸せそうなイメージが一番にあるが自分たちで行わなければいけないことに不安や戸惑いがある
		これから子育てが大変だけど幸せそう
		大変そうだけどしあわせそう。知識不足で不安を感じている
これからの自宅での生活に不安と希望を抱いている		

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
アンビバレントな気持ちが生じている	子どもができた喜びと不安の両方の気持ちが生じている	子育てへの不安を抱えている。子どもの成長を楽しみにしている
		喜びと不安が混ざっている。幸せを感じている
		これから子育てがスタートして希望と不安があり、母親は夜寝れないイメージ
		無事に出産し、子どもが生まれてきた安心と今後への不安を感じている
		子育て大変そう。新たな家庭を築くことができ幸せ
幸せなイメージ	幸せなイメージ	出産を終えて家族が増え、幸せなイメージ
		幸せいっぱいイメージ (2)
	喜びを感じている	新しい家族が誕生したことにより喜びを感じている 新たな家族の誕生に一家が喜び、絆が深まるイメージ
イメージできない	イメージが無い	具体的なイメージが無い

表2 退院後の母子及び家族のイメージ (実習後)

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
子育てへの人的サポート	協力して育児をしている	実家に帰って実母などにも手伝ってもらう
		家族で協力して育児を行う
		母は特に不安を抱えているが、実家の両親など周りの人がサポートすることができるように体制を整えている
		退院後、母親の休息状況が足りないことによる負担が多くなってしまったため、より家族の支援が必要であるとする
		子どもが増えてこれから家族としてより一層2人で支えて暮らしていく
		眠れなくて大変そうだけと家族で支え合っているイメージ
		周囲のサポート状況によってその後の育児に大きな違い(母親の心理面やそれに伴う育児行動)が生じてくるイメージ
		家族のサポートがあるとより安心
		自分の親などの援助を受けながら生活している
		退院後も周囲のサポートが必要である
		これから子育てを家族全員でしていくイメージ
	育児は周りのサポートがとても大切	
	援助が必要	家族の生活状態を把握しつつ退院後も援助していくことが必要であるとする
子どもが生まれたことによる生活や親役割の変化	家族の役割の変化	退院後の家族の役割が変わり、子育てをどのようにしていき、生活をそれぞれがどう構築していく必要があるのか考えていかなければならないと感じた
	生きがいを感じている	母や父は子どもが生まれたことで新たな生きがいを感じている
育児不安が生じている	孤立	夫と子どもとの生活(母親だけでの子育て) 自宅にこもりがち。地域や社会から孤立しがち
	子育ては大変である	実家への里帰りやサポート体制が良好で当たり前だと思っていた。→それは恵まれていることであり、退院してからが大変だというイメージに変わった
	育児に対する心配がある	育児の不安や家族のサポート体制が十分であるかなどの心配
アンビバレントな気持ちが生じている	子どもができた喜びと不安の両方の気持ちが生じている	出産し、赤ちゃんができ、喜びとともに、これからの子育てに対する不安を抱えている
		初めての育児で不安を感じている人が多い。育児を児の成長を感じながら楽しんでいる
		幸福感と育児の大変さの2つのイメージ
		希望にあふれている。育児に関する悩みが尽きない 新しい家族を迎えたことの喜びとこれからの育児に対する不安がある
幸福感を感じている	大きな幸せを感じている	幸せであふれている 新しい家族が誕生したことへの喜びや幸せがとても大きい
	素晴らしいこと	本当に素晴らしいこと
復職後の育児を考えている	仕事と子育て	仕事や家庭と子育てを両立していく
		仕事に復帰し、保育園などに預ける

表3 子育て支援に対する知識（実習前）

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー	コード	
母子保健行政・公的支援業務	保健師や地方行政に関する業務等	医療費	医療費が無料の地域もある	
		育児補助金	育児補助金	
		母子健康手帳	母子手帳	
		保健師・市役所に関する内容	保健師や市役所職員との関わりがある	
		育児支援センター	センターなど 母子育児支援センター	
	母子保健行政業務	保健師業務	保健師の仕事にある	
			保健師による指導	
			保健師さんの主な仕事	
			保健師が何か行っているイメージ	
			各地域の役所などで解説しているイメージ	
相談は保健師が対応している				
市役所業務	相談を聴く			
母子保健支援事業	母子保健指導（両親学級などの育児支援）	母親・父親学級	市で行っている親子教室，母親教室など	
			母親学級（4）	
			母親教室。父親教室	
	母子保健業務（市町村にて行われる健診）	健康診査	一か月健診（3）	
			健康診断（3）	
	母子保健業務（新生児訪問など）	保健師による家庭訪問	保健師の訪問支援	
			家に保健師が来てくれる	
			産後、保健師による家庭訪問	
		保健師の訪問がある		
		出産前後の支援	出産前後に健診、訪問がある	
家庭訪問	家庭訪問			
	保健所からの訪問			
	訪問する制度がある			
支援内容と場所	支援業務内容	子育て相談を受ける	電話でも相談可能である	
			相談を聴く	
			子育ての相談をうける	
			子育てについて相談に乗る	
		子育て相談をする	子育てについての相談を受けてくれる	
	保健指導する	保健指導		
支援場所	ファミリーサポートセンター	ファミリーサポート		
親の集まる場所	地域で親が集まる場所	地域での集まり	地域で母子が集まれる場がある	
			地域での集まり	
		子育て支援の催し物	子育て支援フェスティバルのボランティア	
知識としてない		親の会	親の会	
			ありません（6）	
			わからない	

表4 子育て支援に対しての知識（実習後）

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー	コード
子育て支援センターの存在	子育て支援センターの存在の認識	母子保健センター	母子支援センターがある
		地域に支援センターがある	地域の子育てセンター
			地域の支援センターがある
		子育て支援センター	子育て支援センター（3） 子育て支援センターがあること。これを退院時に説明される。同じ年代の子どもを育てている人と関われる
主体的に育児に取り組む母親の場所	母親同士の育児を通じた交流と支え合いの場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親同士の交流の場</li> <li>・育児についての相談</li> <li>・育児の悩みを共有</li> <li>・支え合い</li> <li>・リフレッシュ</li> </ul>	育児サロンやサークルを通して母親が主体的に行動できるように支援したり、母親同士が教え合ったりすることで、悩みを解決へと向かわせる
			子育てサロン、地域子育て支援センター、育児サークルなどの子育てについての相談窓口
			情報交換の場。育児について相談できる
			不安や悩みを解決することができるようにできる場が作られている。地域子育て支援センターでお母さん同士や子ども同士が交流することができる、情報共有することができる
			育児での悩みを話し共有できる場。母親同士の友達づくりの場
			子育て支援センターで相談することができる
			子育て支援では、退院後育児に対して不安を抱いている人が気軽に参加でき、沢山の母親との交流のもとで互いに助けあったり、アドバイスをし、不安を解消しながら子育てすることができる場であるとする
			育児に関する知識の提供。母親同士で協力、支え合いができる環境
			育児の悩み、共有
			子育て支援センターは自由な時間に行くことができ他のお母さん達との交流も出来、情報共有の場になる
			同年代の子を持つ親と子が集まっている。不安なことか共有している
			子育てしている母親が気軽に遊んだり、相談したりできる場所。リフレッシュする場所
助言を受ける場所	育児の専門家から支援が受けられる場	専門家に相談できる場	専門職に相談できる機会 専門の話が聴くことができる
		専門家の支援が得られる	保育士など子育てに関する専門的な知識を持った人が支援してくれる
		スタッフがいるので安心	スタッフがいるからお母さんが安心できる
子どもの遊び場	子どものための場所	安全な子どもの遊び場	子どもが安全に遊べる場 子どもの遊びの場を提供
支援を受けられる場所	家族だけでは不十分なとき、支援を受けられる場所	ファミリーサポートセンターの存在	ファミリーサポート？おひさま？ ファミリーサポートネット（有料）
		支援者のいない場合の育児支援サービス	ファミリーサポーターなど核家族や子どもを預けられる人がいない場合の育児支援サービスがある
		産後のサポート支援の場	産後のサポートが今年の夏から始まっている
少子化政策の実施機関の場	実施目的と政策を結び付けて考えている	切れ目のない支援	切れ目のない支援のための1つとして（子育て支援センター）位置づけられている
		地域子育て支援拠点事業	地域子育て支援拠点事業 ほっとほたる。旭川市で委託されている事業として地域子育てセンターで実習させていただいた
		国からの給付金（支援金）	支援金（国からの給付）
子どもを預ける場や漠然とした知識	子どもを預ける場所	子どもを預ける場所の相談	今後の保育園・幼稚園の相談
		子どもを預ける場所	院内保育園、幼稚園、保育園
母子保健業務	母子保健行政の中での育児支援業務 母子保健業務（施設内）	父親学級	父親教室
		保健師などによる家庭訪問 一か月健診などの健診、外来受診	地域の保健師や助産師による家庭訪問や健診での育児相談をすることができる支援
			保健師の訪問、一か月健診、外来受診

れる基本的な資質・能力を育てるためには、多様な人が対象となる実習の中で、知識・技術の統合を図り、倫理観の養成、看護職としての自己のあり方を省察する能力の育成を身に付ける」<sup>4)</sup>と有り、実践・体感学習の必要性が述べられている。病院実習だけでなく子育て支援センターの実習にて、退院後の母親の子育てにおける切実な思いを聴き、支援しているスタッフの言動の根拠を考えることで、知識の統合を図ることができたと言える。

しかし、子育て支援センターの実習後に病院実習を行ったが、そこで子育て支援センター実習で得たことが活かされることはほとんどなかった。学生にとっての2週間という母性看護学実習は、劇的な母子の変化にただついていくのが精一杯であったことが想像できる。今後は、周産期ケアの展開の中で退院後の母子及び家族へのケアとしての子育て支援センターでの学びを取り入れられるような助言、指導が必要となる。

## V. 結 論

子育て支援センター実習の前後で、退院後の母子及び家族についてのイメージに変化が生じ、より母子の

姿を明確に捉え、子育てのサポートの必要性を実感できていた。子育て支援の知識においても、実習後には具体的な退院後の母子の状態を把握したうえでの支援が知識として認識できていた。よって子育て支援センターの実習は有意義であることが示唆された。

## 引 用 文 献

- 1) 梅崎みどり, 富岡美佳, 井上理恵: 母性看護学実習における教育方法に関する文献の検討, 山陽論叢, 第21巻, 11-18, 2014.
- 2) 厚生労働省 (2017): 子育て世代包括支援センター業務ガイドライン  
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/kosodatesedaigaidorain.pdf>  
 (検索日: 2018年6月10日)
- 3) 服部律子: 周産期のメンタルヘルスケアの動向と助産師に求められるかかわり, 助産雑誌, vol71, no.4, 262-267, 2017.
- 4) 文部科学省 (2017): 看護学教育モデル・コア・カリキュラム [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1217788\\_3.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1217788_3.pdf) (検索日 12月24日)